中学１年　国語科　教材別テスト⑩　模範解答・解説

古典の世界（いろは歌・歴史的仮名遣い・古典常識）／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

教科書の現代語訳・脚注・解説は載せていません。**教科書『国語１』の「古典の世界」のページを開いたまま**解答します。古文の原文（いろは歌・竹取物語・枕草子など）は著作権が切れているため、必要な部分だけを引用しています。

このテストは、教材⑧「竹取物語」・教材⑨「漢文（矛盾）」で学んだ古典の基礎を、**学年末に総まとめ**する位置づけです。「いろは歌」「歴史的仮名遣い」「古典作品の基礎知識」を、まとめて確認できるように作っています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（古典・和歌・季節に関わる語／20問）	１点×20＝20点
	二	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（10問）	２点×10＝20点
	三	古語の意味・古文の基礎（助動詞「けり」）	２点× 5 ＝10点
思考・判断・表現 50点	四	「いろは歌」と古典常識の読解（記述４問をふくむ12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す**手順**を身につけているか（特に**語頭の「は」は直さない**こと）。

② 「いと」「あやし」「うつくし」「つとめて」など、**現代語と意味がずれる古語**を正しくとらえられるか。

③ 「いろは歌」が**四十七字のかなを一度ずつ使った歌**であり、文字の学習や順番を示すのに使われてきたことを理解しているか。

④ 「色は匂へど散りぬるを」から、**花が散る自然のありさまと人の世の無常**という考え方を結びつけて説明できるか。

⑤ 竹取物語・枕草子・平家物語・徒然草・おくの細道の**ジャンル・時代・作者**を整理できているか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	ぼうとう	⑪	梅
②	むじょう	⑫	風
③	きゅうれき	⑬	川
④	よむ	⑭	作者
⑤	ろうどく	⑮	手紙
⑥	なごり	⑯	桜
⑦	しげる	⑰	照る
⑧	おしむ	⑱	伝わる
⑨	ずいひつ	⑲	短い
⑩	おもむき	⑳	雪

小計　20点

【注意したい字】

②「無常」は「無情（なさけがない）」と書き分ける。古典では「変わらないものはない」という意味の**無常**。③「旧暦」は「きゅうれき」。「きゅうごよみ」と読まない。④「詠む」は歌や詩をつくること。「読む」と書くと別の意味になる。⑥「名残」は「なごり」。「なのこり」としない熟字訓。⑩「趣」は「おもむき」。送りがなは不要。④⑦⑧は読みも**送りがなまで書く**（「よ」「しげ」「お」だけでは×）。⑰「照る」、⑱「伝わる」、⑲「短い」も送りがなを落とさないこと。⑯「桜」は木へんの右側を「ツ＋女」の形で書く。⑪「梅」とまちがえないこと。⑫「風」の中は「虫」の形。⑮「手紙」の「紙」はいとへん。

二　歴史的仮名遣い　（２点×10＝20点）

番号	解答	解説
(1)	**いう**	語中・語尾の「ふ」は「う」に直す。発音は「ユー」だが、**書くときは「ゆう」ではなく「いう」**。ここをまちがえる人がとても多い。
(2)	**おかし**	語頭の「を」は「お」に直す（助詞の「を」は直さない）。意味は「おもしろい・趣がある」で、現代の「おかしい（変だ）」とはちがう。
(3)	**ちょう**	「てふ」は teu → tyô と変化するので「ちょう」。「蝶（ちょう）」のこと。「てう」「ちよう」は×。
(4)	**あわれ**	「は」が**語中**にあるので「わ」に直す。「しみじみとした趣」「気の毒だ」の意味。
(5)	**いる**	「ゐ」は「い」に直す。「ゑ」は「え」。この二字は現代では使わない。
(6)	**はじ**	「ぢ」は「じ」に直す。ただし**語頭の「は」はそのまま**。「わじ」としたら×。ここが最大の落としどころ。
(7)	**みず**	「づ」は「ず」に直す。「水」のこと。
(8)	**なお**	語中・語尾の「ほ」は「お」に直す。「なほ」＝「やはり・さらに」。
(9)	**かじ**	「くわ」は「か」、「ぐわ」は「が」に直す。「くわじ」＝「火事」。「かじ」とすべて直して書く。
(10)	**こえ**	「ゑ」は「え」に直す。「声」のこと。

小計　20点

三　古語の意味・古文の基礎　（2点×5＝10点）

番号	古語	解答	解説
(1)	**いと**	**イ**	「いと」＝**非常に・とても**。程度を強める副詞で、古文に最も多く出る語。さらに強めると「いとど」。
(2)	**あやし**	**ア**	「あやしがる」＝**不思議に思う**。竹取物語の冒頭、光る竹を見つけた場面。現代語の「あやしい（うたがわしい）」とはずれる。
(3)	**うつくし**	**イ**	ここでの「うつくし」＝**かわいらしい・いとおしい**。小さなかぐや姫の様子を表す。現代語の「美しい」だけで覚えると読みちがえる。
(4)	**つとめて**	**ア**	「つとめて」＝**早朝・翌朝**。「努めて（努力して）」と形が同じなので混同しやすい。
(5)	**けり**	**イ**	「けり」は**過去**を表す助動詞。「ありけり」＝「あった」。「今は昔」という語り出しとあわせて、**昔のことを語る形**になっている。

小計　10点　／　知識・技能　合計　50点

【歴史的仮名遣いを直す手順】

①　**ゐ→い／ゑ→え／を→お**（助詞の「を」は直さない）。②　**語中・語尾**のは行（は・ひ・ふ・へ・ほ）**→わ・い・う・え・お**。**語頭は直さない**。③　**ぢ→じ／づ→ず**。④　**くわ→か／ぐわ→が**。⑤　残った「〜au・iu・eu」を長音に直す（てふ→ちょう、けふ→きょう、やうやう→ようよう）。この①〜⑤の順に当てはめれば、ほぼ機械的に直せる。

四　「いろは歌」と古典常識の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 5 点	**（例）四十七字のかなを、一度ずつ重ならないように全て使ってよまれた歌。（32字）**	「四十七字（すべて）のかな」（２点）＋「**一度ずつ・重ならないように使っている**」（３点）で採点。「かな」の語が使われていなければ－１点。「昔の歌」「仏教の教えの歌」だけでは０点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(2) 2 点 × 3	**①　におえと** **②　うい** **③　えい**	①「ほ」「へ」はどちらも**語中**なので「お」「え」に直し、「にほへと」→「**におえと**」。漢字をあてた「匂へど」の形なら「におえど」となる。 ②「ゐ」→「い」。「有為（うゐ）」＝移り変わるこの世。 ③「ゑ」→「え」、語中の「ひ」→「い」。「酔ひ（ゑひ）」＝よい。
(3) 3 点	**イ**	いろは歌は、かなを一度ずつ使うため、**手習い（文字の練習）**の手本になり、また「いろは順」として**物事の順番**を示すのにも使われた（「いろはの『い』から」という言い方が残る）。
(4) 6 点	**（例）美しい花もやがて散るという自然のありさまで、変わらないものはないという無常の考え。（41字）**	「美しくさいた花も、やがて散ってしまう」（３点）＋「**変わらないものはない／いつまでも同じではない＝無常**」（３点）で採点。 「無常」の語がなければ－１点。「花がきれいだ」だけ、「さびしい感じ」だけは０点。**自然の様子と人の世の考え方を結びつけている**ことが条件。三十五～四十五字から外れたら－１点。
(5) 1 点 × 5	**①　ウ** **②　オ** **③　エ** **④　イ** **⑤　ア**	①竹取物語…平安時代初期、**作者未詳**の物語。②枕草子…平安時代、**清少納言**の随筆。③平家物語…鎌倉時代、**軍記物語**（語り伝えられた）。④徒然草…鎌倉時代末、**兼好法師**の随筆。⑤おくの細道…江戸時代、**松尾芭蕉**の紀行文。 「随筆が二つ（枕草子・徒然草）ある」ことを押さえ、**作者名で区別**するとまちがえない。
(6) 2 点	**かぐや姫**	竹取物語は、竹の中から見つかった女の子「かぐや姫」の物語。「竹取の翁」「なよ竹のかぐや姫」でも可とする。「竹取物語」と作品名を書いたものは×。
(7) 1 点 × 3	**①　一（月）** **②　三（月）** **③　十二（月）**	睦月・如月・弥生・卯月・皐月・水無月・文月・葉月・長月・神無月・霜月・師走の順。**弥生＝三月、師走＝十二月**は特に出やすい。「師走を一月」とするまちがいが多い。

四　「いろは歌」と古典常識の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(8) 2 点	**ア**	旧暦では一〜三月＝**春**、**四〜六月＝夏**、**七〜九月＝秋**、**十〜十二月＝冬**。だから「七月」が秋の季語になるなど、今の感覚とずれる。
(9) 2 点 × 2	**①　イ** **②　十七**	①和歌（短歌）は五＋七＋五＋七＋七＝**三十一音**。だから「みそひともじ（三十一文字）」と呼ばれる。②俳句は五＋七＋五＝**十七音**。「十七文字」でも可とする。
(10) 4 点	**（例）和歌は五七五七七の三十一音、俳句は五七五の十七音でよまれる。（30字）**	「**和歌＝五七五七七／三十一音**」（２点）＋「**俳句＝五七五／十七音**」（２点）で採点。どちらか一方だけなら２点。音数にふれていなければ各－１点。二十五〜三十五字から外れたら－１点。
(11) 6 点	**※固定の正解は示さない。下の採点基準で採点する。**	**【満点（６点）の条件】**①古典を学ぶ意味について**自分の考え**がはっきり述べられている。②その理由や根拠が、**このテストで学んだ具体的な内容**（いろは歌、歴史的仮名遣い、無常の考え方、旧暦、和歌・俳句の形式、作品の時代や作者など）にふれて書かれている。③六十〜八十字におさまり、文として整っている。 **【部分点】**・考えは書けているが、具体例や理由が弱い…４点。・感想のみ（「おもしろかった」「むずかしかった」）で考えになっていない…２点。・無記入、または古典と関係のない内容…０点。 ・字数が六十字未満または八十字超…上の点から－１点。 **【想定される方向】**昔の人の感じ方や考え方を知ることができる／今の言葉のもとをたどれる／長く読み継がれてきた理由を考えられる／季節や自然へのとらえ方が今と違うことに気づける。どの方向でも、**根拠が書けていれば加点**する。
(12) 4 点	**ア・イ・ウ**	ア…平家物語は琵琶法師が語り伝えた（○）。イ…徒然草は「つれづれなるままに」で始まる（○）。ウ…俳句には季語を入れるのが決まり（○）。 エ…「竹取物語」は**日本で生まれた平安時代初期の物語**で作者未詳。中国の物語の翻訳ではないので×。オ…旧暦では**十〜十二月が冬**（秋は七〜九月）なので×。 **ア・イ・ウの三つがそろって４点（完答）**。一つでも足りない、または余分に選んだものは０点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. 歴史的仮名遣いは**直す順番**を決めておく。①ゐ・ゑ・を　②語中・語尾のは行　③ぢ・づ　④くわ・ぐわ　⑤長音（てふ→ちょう)。順にあてはめれば迷わない。
2. 「は→わ」に直すのは**語中・語尾のときだけ**。「はぢ→はじ」「はな→はな」のように、**語頭の「は」はそのまま**。最大の落としどころ。
3. 「いふ」は「**いう**」と書く。発音どおりに「ゆう」と書くのは誤り。
4. 「てふ→ちょう」「けふ→きょう」「やうやう→ようよう」は、一文字ずつでは直せない**長音**。セットで覚える。
5. 古語は**現代語と意味がずれる**ものに注意。「をかし＝おもしろい」「あやし＝不思議だ」「うつくし＝かわいらしい」「つとめて＝早朝」「ありがたし＝めったにない」。
6. 「**けり**」は過去。「今は昔……ありけり」は、昔話を語り出す決まった形。
7. 作品は**時代・ジャンル・作者**の三点セットで覚える。竹取物語＝平安初期・物語・作者未詳／枕草子＝平安・随筆・清少納言／平家物語＝鎌倉・軍記物語／徒然草＝鎌倉末・随筆・兼好法師／おくの細道＝江戸・紀行文・松尾芭蕉。
8. 旧暦は**一〜三月が春**。今の季節感と一か月以上ずれる。「弥生＝三月」「師走＝十二月」を軸に、十二の月名を順に言えるようにしておく。